湖月抄

あ

十二

和書門
類
一七七〇三
號
二一七
函
一一
架
六〇
冊

內閣文庫
•和書
類
一七七〇三
號
六〇
冊
一二
架
二〇三
函

內閣文庫

番號	和 17703
冊數	60 (18)
函號	203 32

Kodak Gray Scale
© Kodak, 2007 TM: Kodak
COLOR CHECKER
X-rite
MSCCPPCC0411
MSCCPPPE0411

国立公文書館
National Archives of Japan

七月廿日ごろおくれ申しやうにて三月ばかりあるべしとて
ひとびとはいとうれしがりあへり
あるべしとのうはさ
八月廿日あまりの頃なりしかばとて
人々物をいとなみ
十月ばかりにてことのはてんといふ
十月ばかりにてことのはてんといふ
殿方ばかりにてことのはてんといふ
殿方ばかりにてことのはてんといふ
殿方

明石　巻名寄　新編

をちかりぬやつ遠くとゝひあつまれるこゝろを詠ける

と而よあり　細　源氏君廿六歳の三月より廿七歳の秋迄京

の事まくあり

[illegible]

なくなる風やまず　細　三月

一日の上巳の後の時ける

也　花を見る日なり　日十三日より

西風やまずして　[illegible]

[illegible]

[illegible]

諸度周公旦を詩にして周公東征よ

事二年　その秋天大よ

雷電ちく風吹栗こと

くそこなふ　大木の根ぬ

けこれ成王そのとき金

縢の書と　古書周公の制作

被さん給て周公の王室に

功ありてこゝにとゞまり

るとこゝろ給そのとき

る風こちもちやこゝ

ちくく吹る大木のこと

こゝもそのごとくよる

まこゝろ　[illegible]

八二叔の讒こゝを成王の

信じ給て天のりとる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しうの地成王の思ひよりまるよりて業もものごとくにしるわ今源氏物語
国に且よりもびとくに三日までの西風といふて梯の書をよ文王の子武王の弟とをひお
しうもびとくにのうち也 孟周公東都よりうる尚書ホにありこれと下に合く
くとうとうとうとう 細 大江の匂ひあるよ又うとうとうれて西風の恐怖あるいはしこのきいまわる也
ムづかうとし
世よゆうこれもうくていハ合うこれうる 細 伊周公のうち花色のよみくうり 花 陣内大臣伊周公
播磨国よりうされて返ひそうよ新よのうりて母えよあひ給とせて来て来て罪とおして
ううよ大宰府へううこれうり 紫花物語よりうり源氏いうづうう彼母よりて給かす
うく思ふ〜給へ 細 人うう左右也〜給へる也 詩賦也上撰のムつひく 孟 上撰のムまひて感
海風ようづれてなと
人口を惜うよ所要うり やううのホをとうくムて比物語とうとうべうう物語をとうて 源氏
出来ものうう出来ものう 細 主風の意にあり し給えへめする也 義同
対ムづかうし ううハのホとうれ
出て失うる花をいうう
故堤のうに侍うう

ホのううれ 細 うう西風のう
ぶれ也おるぶら失うのうう
れよいあうぶで 花 西ノ 風
綱とうハ五日の風十日の西
吋をううねうう。う年に
対して花のうぶれとハ
いうう

おやーううをぶう 細 ムい侍使
也 義笠ぶの祈なうび
あうれなうう
ううひうて 日 道のうう
うひう 花 笠日記おうう
のううひうし花うれで
あううとうう
ううう
まり門をひうう ひ 孟 原の
世よ南庭の時八遠樹ひる
どもうう着うれどう
うりしうう
紙みうううううけう
細 紫雪庫の宝也 男を
うづううんうう宝ホ西
紙みううううの物とう
つうう世うう対面わ
ううのうづうう也
あううう
細 紫上うりの文乃物の中
と家ようう
いうう花うう
ううのうう 花ムも
ううのうう孟 細 北
ううの中を

ありぞあるうう
うう也
ぞうよあ
ひうう
ひうう
うう
うう
う

あらしかぜ　暁　孟案の奇　孟案の奇

仁王會　細七難即滅の文

暁　河　仁王會とハ

経日論讀般若波羅蜜

七難即滅七福即生萬

姓安樂　帝王勢喜日月

失度宿星失度八雨風旱

鬼賊謂之七難　仁王経

持統天皇御宇始渡業

本朝三月被行仁王會

例　天暦六年三月廿七日

被行臨時仁王會一代一

度被行之初例

例の風　孟案の奇

孟案の奇

孟案の奇

河 古語拾遺云至於盤余雅櫻朝住吉明神顯矣
日本紀云浮濯於潮上因以生神凡有九神其表筒男命中筒男命底筒男命三神鎮坐焉是
即今住吉明神矣
神功皇后十一年辛丑
住吉明神顯四所中南
社表通姫 因基次神功皇后
住吉明神八柱の母と

きめ紙をもつて毋もあひすぐるの
しきめとのうの和とをもつて
置座に清めきよめ
よりて清浄の幣とす
ろくのそくく
河 青幣 白幣 日本紀
みかたの幣あり
ものの一のうく

細 書み
細 原の
細 皮清祓祭還の舟とちうんの事
細 仏の

うのあやまちもあひすぐるの
ちのちさはめんこれをことでいちうまえ
とびきはめん 物のうへ
きはうくれば
てすくうの命をとさるはよ
めぬりの法
べきものいくれ

細 原式の
細 仏

天地

左傳云公々怒之命不越境細公卿非公事不越境

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十三日より　細　雲のゆきかよひ
師　はをはしめ人々まうこと
まうこと日のまに
ゆくゆくにまかせ
まのうへのひとも
ちりみだれ雲ぬしと
いかめしき雨風いづらの
細　人々さまざまそ
ものも　師　雲の花のえ
雨風雷電の雲あれど
入々まうして源の中納言
上まうのぼりとこひてく
ゆかなとまつ〳〵せ〳〵
雲とをんじて
細　故事　不可勝計　嗟　傳説
ゆゆ　孟　史記殷本紀曰
帝武丁即位思復興殷
而未得其佐三年不言
世事知政定於冢宰
以視國風武丁夜夢
得聖人名曰說以夢求
見視群臣百官求之
於是乃使百工官求之
野得說於傅巖中見之

於武丁夢中見之日是也得而
与之語果聖人舉以為相
殷國大治武丁高宗也
雲ゆゆ　細　說文
ゆとゆ　ゆ　ゆ　ゆ
よみ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

月ごろの出てまる
細 法ヲ とそう

くよ秋のてんしろうさかく
よしとうしば
和山ゆく良法ゥ修しる
どとゆをとき修しよわ
いせくげみといろう
まつれうし 細 常よ未
ゆ一業上の山後入浴
にとぐめ修しを呂とめ
しをもうひくゆ見るる
と修ろも
つうぐさみちよ 細 う地
のそことろとろれい
ちいうぐちのゆびまく
ゆしは修ぐりさる

みしうをろぐ不立しそいて前載ゆ
どのゆ修えしもいえぬ入江のゆなぐ
四ゆ年ゆ月ゆ
ようばくんのいつちとくゆうんうしハ
うさをうぶまぐとゆ月ごろのいを海
ゆ一ちいこをゆ見ゆ
ゆうちいこをゆ見ゆ
ゆのゆ見ゆ
ゆ見ゆ
ゆ見ゆ

[illegible]
細 紫上の句清げのまき
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

亮時樂士伶倫也金授廣陵散自是叔夜琴名大震千世矣花云廣陵散琴ノ秘曲也
嵇康ノ神人ヨリ授テ傳ル曲也此神人昔伶倫寥化也記幾日此曲寥ヨリ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

入戸びゝの人名
盲人琵琶法師

細川殿の法師
細川殿八盲者琵琶とひ
花琵琶ゝ有りく法師
也。南北の盲目琵琶法師
小右記云呂琵琶法師
全戸々才藝給ル録云
寛和元年七月十八日

入戸の琵琶

細川殿原の昊一位殿
法師よりて
細川殿原の筝のことも上手
入戸の琵琶

細川殿の琵琶法師
細方申ハ琵琶法師
細川殿八盲者
細川殿の琵琶法師
細川殿の琵琶法師
細川殿の琵琶法師

延喜八帝ゆきより
暁筆琵琶の伽の名を
いろり細河海抗可弘代ハ
七代なれど血脈三代と見
ゆる

河筝相承事

宇多院―時平―延喜帝
　　木院
　　―伊勢
　　―敦慕親王
　　―公主
　　―村上天皇
　　―小野宮
　　―実頼
　　―公任
　　―公主
　　―敦実親王
　　―源雅信
　　―倫子
　　―彰子
　　―敦成親王
　　―後朱雀院
　　―後冷泉院
　　―白河院
　　―堀河天皇
　　―鳥羽院
　　―崇徳院
　　―後白河院
　　―高倉院
　　―後鳥羽院
　　―土御門院
　　―後嵯峨院
　　―後深草院
　　―亀山院
　　―後宇多院
　　―後二条院
　　―後醍醐院
　　―後村上院
　　―後円融院
　　―後小松院
　　―後花園院
　　―後土御門院
　　―後柏原院
　　―後奈良院
　　―後陽成院
　　―後水尾院
　　―後光明院
　　―後西院
　　―霊元院
　　―東山院
　　―中御門院
　　―桜町院
　　―桃園院
　　―後桜町院
　　―後桃園院
　　―光格院
　　―仁孝院
　　―孝明院
　　―明治天皇
　　―大正天皇
　　―昭和天皇

宇多院―時平―延喜帝

延喜八帝
暁筆琵琶の伝の系を
いろり細河海抜可弦代八
七代ゑれど血脈三代と尽
ゑり

河筝相承事

宇多院 時平 本院 延喜帝
金婦 石川色子
於 紫宸殿 山上
過唐人傳之奉
授 宇多
院云云
勤子内親王 斎宮 公主
資頼 小野宮 村上天皇
武人 源氏 朱雀院 天暦

院より雅楽といひて、延喜より
ずっと代代とつゞき明石
入道延喜帝より三代いい
へるくーくーくーくーくーくー
や、若云 延喜帝門弟
世ゑりと孫弟子ゆゑりゑべ
きよわゑゞ孫弟子ゆゑ上ゑ
ど八世より八代後ゑゑきゑ
よゑ門弟ゑいよ習ゑゑ人八

くゑゑ多ゑて、あそはもゑゑゑゑゑ
海ゑゑいづゑのゑ作ゑんゑゑ
ぎゑゑんぎゑゑ
ゑのはてゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑんゑゑ作めゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑのよれゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ちよいづゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
わゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いせの海なるなと
細川忠興ふたりて住吉
の海なるなどいとり
河催る樂よ住吉のうら
こまとこなるさうの志れが
ひよるのりをやつまむ
うひやひろうんまやひ
ろうん
けそるそ
細そ一八歌く熱歌をそ
同名く作第五巻
注を
をのがくりのをとれ
作うる極奥とうもも
あくねどくくに書ホ
酒あそとまうりて自
強と酒も知らひ一あ
うれへとそれのひ人も
計酒よまろめ強さ忘
きめくき歌のうねそと
也

のふうをまーういせの海なるね
どそそれるさまうやひろうんるどそ
細そねくうをせくく我をはぐ知やし
ままんよるうをせくく我をはぐ知やし
とりてこ
よめうく
めそそ
うをめくく
どてそ
むをなく
しうて同
うりて志
笑てこの
つひのら

花原もし

ものの人人原のうひま

ものさうつ

ものうそ

ものうそ

ものうそ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くらぶるよ
細殿の人々の例よ名者おかしかりし世界よりうそもうのうひかりもうしろ
ハ[illegible]年比老法師のいのり[illegible]仏神のあられ[illegible]
かりもうしろ[illegible]のそ[illegible]
[illegible]
[illegible]

潮色偏恐初来客海味只賞大仕人のらを慣
伯者
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

入左衛門

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

弘徽殿の女と八大臣
なり
細 二条大臣
なる也 弘徽殿の又也 太政大臣
より行 ゆくすゑ
前ゆくとあり 一本ゆくゆく
ゆくゆく 咲 悪大臣也 前
より行 ゆくすゑ 西
をこの源氏 孟氏
ゆくゆくはいかゆくすゑ
もあり なんと 位門の位
ゆく 作 朱雀の位 河
世のもときはゆくすゑ
三とせ
の ゆく 花 名 位 可 盛
明 流 移の人 六載 ゆく 海
澄 三 載 ゆく ゆるす
ゆくゆく 獄 令 の 条 名

みもゆくゆくをもさだめ給ふ
こゝろをゆくゆくのはゝ
なれど 二条の中 のゆくゆくの
ゆくゆくをのゆくゆくはべ
ゆくゆくよりそこゝろ
づゝひまて 位 れゆくゆく
間 よ 位 しなげゆくゆくなり 氏
これ源氏 氏 海 ゆくゆくなる
そゝゆくゆくはゆくゆくはべ
ひゆくゆくんとゆくゆくはいまは 氏
ゆくゆくのゆくゆくをもひてんとゆくゆく
しの位 細 人名の中 孟 海
世のゆくゆくあゆくゆくやゆくゆくべ
ゆくゆくよりて 海 をゆくゆくゆく

まのあたりしうは
ぞうこうしいえ
こうちまつせうと
細こうこうひとあとまつせ
しうこ

いとはやうさ　ぞくのいとうこ
こうこうこうこうこうこうこ人の
細一位四ケ度の人ぞくの人
ようこうこうひつく幸いこや
しうき　細なくこうこうあうこ
こうて　ぞくれこ
人ぞくこうも世ぞくれぞくん
ものや　細しぞくきき
もうこうてはなり血やぞく
ぞくこうこうこう
よぞくりこう　細世よまうこを
ぞくり　ぞくこう　細世中みも
まぞくつくぞくるぞくさこうこと
こ一度も人よこうこうぞくては
まぞくこうこうこうこうこうこうこうこうこう
のぞくりこうこうこうこうこうこうこう

ぬのことなりうよ　原ぞくこうこうこうこうこうこうこうこうこう
ひこうりねもまりやうよりの
まびまりこうこうこうこうこうこうこうこう
ぞくこうこうこうこうこうこうこうこうこう
ぞくこうこうこうこうこうこうこうこうこう
ぞくこう

やうちはの入道母ぎみの
ゐて侍りしをまいらせ
んとて手ぶの金銀をうち
ばらりとりをきて
ちらくんとなりて来りて
さうしのうちにかくれ
ぬるをうばいて
ふたりの人と書き侍
りけるとぞ

そうさうきんとうきうとも
いふ是はうりとも
紙ひとをあはんとて
つくりたんとも

はるかせいはいの世をうの
中をそうしのうち
うらうへのもとれ
今は公はべきさきをみうら
ちらくせんとも

そうさうきんとうきうとも
うぞうさんとうきうとも
うもあるべきにやはゆとけ祢と
しのをもうてんのれをもとくせと
もちうでるどうちうへうひうそれさ
ち。ちいうのでうあるとれ書
ねとうきうどうやさうびいうひるくうそうてけうど
るはの絵母びの書とうそうて
ぢのとうくうちうをうそうれど来で
みどもみどあうんうそうびんひうはは
うちるうくやくうちうちつうひて十二日
の月乃花やうまうはうようどあうう
うれと笑うしうえいはすうさのうあやと
ちの月をとどけるすしうなりひうさつううひ
て祢ふうて祢ふうて車をあるくて
ちうれど雨ちうて馬ちうくあるうれ
うりうどうんうりうとうあうううをうやと
とくいる雨ちうう河ちうのゆどまうを

うくうんのうくうちうう
とうのうそうんのけんとも
もくせともちうでうと
れ母はの果どれども入乃
はは一向よはんでせまうせ
んとそうふ

才みどうと 細 才みとと春
屋とうとうとうくはうの
伯のすけおあせう処は
も文の陣才みとうとう
を用ひ花あるの姫は
うるうんを才みとうとう
ちうう和 細 ふーはうんん
はうんせうちのうくうあう
ら和の月と花とを世色
くはううちれうんうり
うせどや花わうう和とは
果和ヨウ和とを焼和たち
を情はあうしむうなり
いうどうはあうさんうの
かうさく
やうとうくうう雨 河 曼の
京人おうちううう

ねとうきうどうやさうびいうひるくうそうてけうど
るはの絵母びの書とうそうて
ぢのとうくうちうをうそうれど来で
みどもみどあうんうそうびんひうはは
うちるうくやくうちうちつうひて十二日
の月乃花やうまうはうようどあうう
うれと笑うしうえいはすうさのうあやと
ちの月をとどけるすしうなりひうさつううひ
て祢ふうて祢ふうて車をあるくて
ちうれど雨ちうて馬ちうくあるうれ
うりうどうんうりうとうあうううをうやと
とくいる雨ちうう河ちうのゆどまうを

の海くもりてやがてくらきまで
きいりえの月げのもとにしひて紀人
のれるこゝろやうひかりてまよやうくむま
ひぎすぎてくもりあへくゆかを
秋の夜乃つきげれ弱よりがらつく
りぬよりられけのまもんとおひりで
れ給つゝわりさ海らぶくいつきあま
さりてこゝあるもまるるりうこのけて
らハいうをりてこれいろが
くすこゝろ海らよりてとひおを
こいあくしてもんと云へ
はりのあくれ三味堂ちくしてひ乃

うくもあて　細女をの特り
給よ此のこゝろ
さと　師さ
つくもくんと明ん上のこゝを
月ハれこゝ秋のこゝ
けりこゝ　細此何時勝と定
家も感し給ゝ
義をよみこゝ
今歌ハとこゝて
うんもさこゝて
はゝ
ちこゝりてもあ
こゝ
つこゝ
時間義定家の
よハこゝ
をこゝ
海氏と
てこゝ
海氏よ
せゝ

秋の夜乃海よ幻ひきあひく秋のこゝ
こゝ海なこゝ
ひをめせこゝ
て風いれこゝ
をこゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あさのもりかるハ
一ぶ三んさーの酒ひと

うぐてうやうさまさひ
盃ひさ賊ようそもと
こ紙もそてこ恵しあり
こしてはこ三こうこ
ふをは後悔く

人のあり酒をこのこ
明んこをろるようけてし
れ第をぶをうろ

まここや　細　文の酒
卯一泛ましこやとハるる
の酒く紙ぶぐ〜ここ
こりは文の酒

てあをりゆ紙ひんこをハぶこうれそ
を人の酒そありもをひこをれは
こんいんぐこ
あぶらちんぐれぐ恵紙ありこし
細生工嫉妬の方ハこ
こりここの
ここまりこ
もこひここよ
ちんこぐこ
をこまつよつけてもさおもをれをり
こうこ海かこ人のあり
こうこ
こうれハ例こりもはやこ
こ
こ
こ
こ
こ

盃紫の文の酒

おりこ
やりこ

こりこ
細をりこ
ありこ
明　松言を
こ
こ
こ
細ひ行文こ
こ
細　文の酒
こ
こ
こ
こ
こ

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

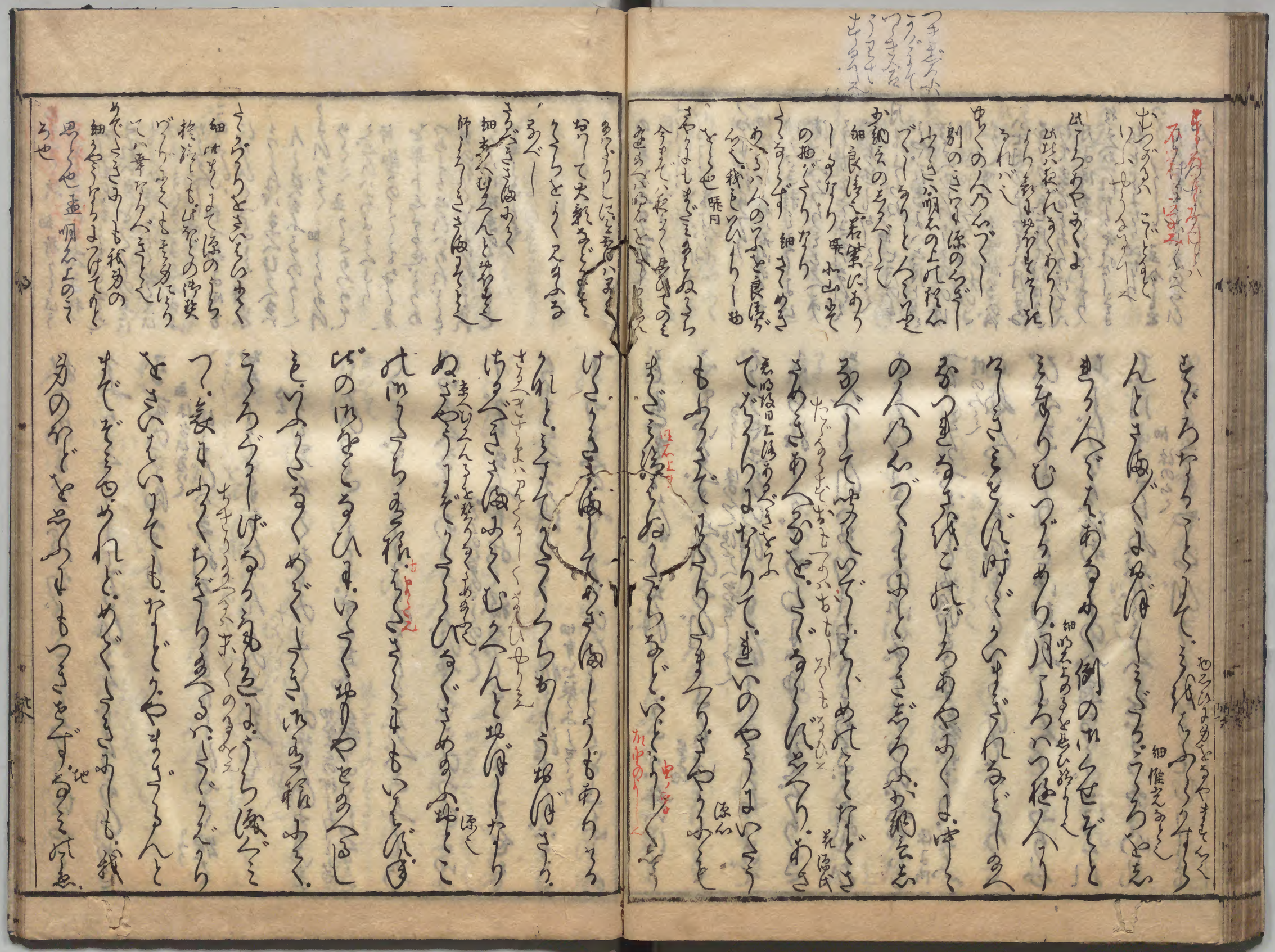
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



秋の風はいとはげしくなりぬるに
ものうすきまつのこずえにかかりたるつゆ
の玉のさながらこぼれぬべきにもあらず
はかなくこぼれかかるもあはれなり

いよいよとうちあきたるこの
元帝の四宮ゆくへなりま
せばゆゑ限るまでそう
わうこさきそで
細一うどあうこ暁わ
こさきとハんをとまり
いよいよでゆあうんり
や無月
うちやうーき行よひき
さー　わくゆーくの
こうちゆうちやうのんなる
ー　無こうとけてを
ひうぬこ
うどぐうよ　細　一言と琴
にうくーうこ琴ハまこう
きあハもうまでの形え
みとあうとそれハなを
ぐうーごとなうこく
師　こきぬ者ハ源のんゆ
ー源ハるどぐうよのの
ふうみと我ハふく物てつき
せで無恵行んとこ表
うこうこせ

こと八げんいとうぐうこうきたることのひうう
れハあくまでひきすまう　ふよう行こ
きねぞまこれこのけこうよぐうよ
めてあうれようこう　まぐうこうれ給
ちぬてゐじうこうやまーこ行ひきこ
つ　あうすゆ　源のふ　ばきうこ月ひなじる
てもうこうこぐうこんとうやこう
ばきうこうこぐうこうのぐうこうゆくこれのうぐ
つとのこし給　こんハまこうこあうこすう
までのうこよとのこうまのこ女
ゆうこうこ
ひうれうよめこくうこうひとこうこと
うこうこぬ者れ　ゆうこうこ思こんハうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

別は力落しなどゆゑ
身のうさとりしまく
物のうさ八男のなりの反
ばかを根年のうくく
もりこうさの事れど
ほのぼの伊系八きて咽至
と拵うふあよ八あねばう
らうんもうりあきう
うれどもそこ世のんうく
八なりやうよやりみべきの
なりべし
母恵もるぐさあ俵て
ひもめのみぐくと熱め
俵て侵悔もうく
あるみうあ　盃あみう
ずやくく　細入方の知く
ずりもうずぐきと八懐妊
さりともぬがと有
ほのぼの恵くるうんや
くくそなぐうらくん
盃咲くく
あるゆくしや
ひてもうれうら祈えん
ていまりやくく伊ひもあ
のあもうそそ張さ弗うら

とゆあくくしもそうぐあ
うう相く
あうくくるるぐひぐう
ぐとゆひあ世く
入方のひぐくくうる事
とゆひうれうと張も
よりひるぐくく
いぐぐりくもうく盃入方
細入方のあうくもう
られうく
ひうハひ一日いちあそれうし
金方の弓ひれうあうさ
まく屋八絞日震ゆし和
ハ物きあうく
ちぐのゆくあもうぐ
なくなりいもくうう
しくあく
月和りあくれるる相ハ
細入方のうなりあのう
りハんかきかりれ方
もうくや
うあのいくの
生あの色の面白さ宗
なり

ものの姫
男女の名
分相之ゆる
コ

ゆえはあるく
ゆえよのうく
ほよあり世くくくう
男女の名ヒメ
細
ものの本
ゆうくくるる
ゆうくくるる
ものの本
ゆうくくるる
ゆうくくるる
ものの本
ゆうくくるる
ゆうくくるる

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

て同宴に侍りしとぞ八雲 細 源の中納言家よて
院の中あよ市八雲 細 源の中納言家よて
さくらかりあるくつとをもてるあるくつとを結ひとうるくはかりの
なごのあるくもあり春行の所ふ勝也
せ給ふもせ給ふんよ 細 まはよ後の
えうせのうへ入道のやみもいんをうむ
げめくは射面のわづをあくれなる
こぐとをあんうし海やみの明ふはい
ゆう波まつけくは文つうを波ふきか
うてうまやうまうを結めう波のうち
くいうを
歌てあくの海はれぐうれうやく
人とをひやうみ御のひをめぐ
あいうくんをれおおひをあくら
なしのうくく 細 みの見
盃 ふふふふけてうを
歌 細 めをしをせうら
歌 歌 歌
歌 歌 歌
歌 歌 歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan